

中高生に向けた大学生 によるワークブック

SDGs編

#SASS実行委員会



Sustainability Awards
for Students by Students



#SASS



大学生による中高生のための SDGs
/ サステイナビリティアワード

Sustainability Awards
for Students by Students



#SASS



大学生による中高生のためのSDGs
/サステイナビリティアワード

君はどんな社会を作りたいか？



君はどんな社会を作りたいか？

SDGsや社会課題と聞くと、自分にはどうにもできない少し遠いことのように思うかもしれない。でもきっと君の周りを探すと、困っている人や困りごとがたくさんいるはずだ。日常生活のどんな些細なことでもいい。君が見つけたその困りごとは、きっとその人だけじゃなくて世の中の他の人たちも抱えている。それがSDGs、社会課題だ。

もし君が困っている人を助けたい、力になりたい、困りごとを解決したいと思ったら、もう君は準備万端だ。それは社会課題を解決するため動機（きっかけ）になる。

じゃあ実際に解決するためにはどうしたらいいだろう。
解決にはいくつかのステップが必要だ。

①課題の設定

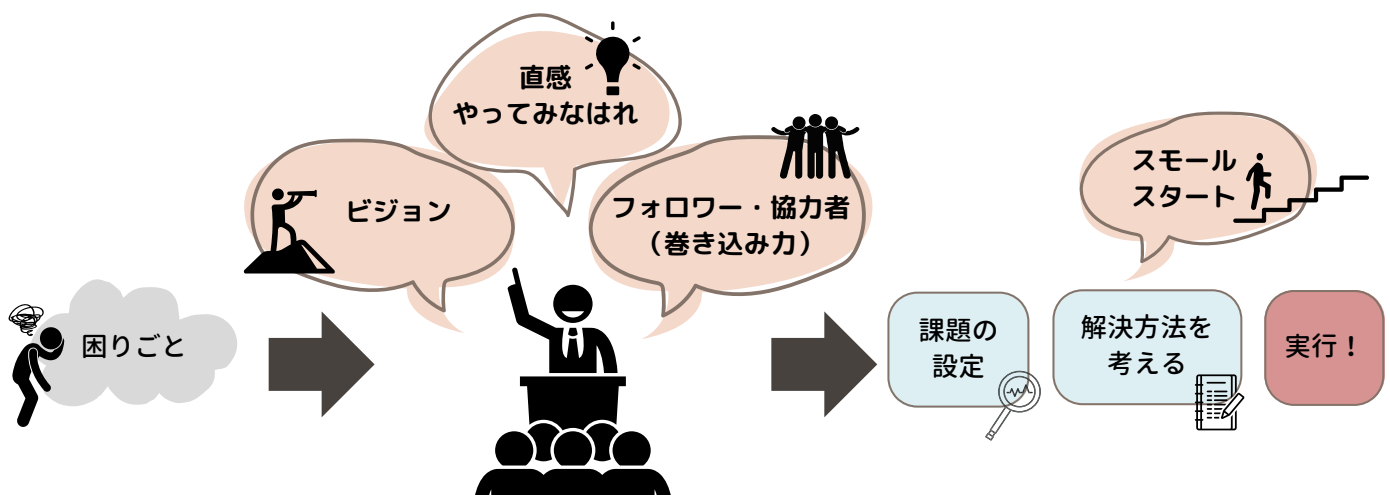
君が見つけた身の回りや社会の困りごとは、色々な課題が複雑に絡み合っていることが多い。君一人ですべてに取り組むことは難しい。まずは小さな課題から考えるために、調査が必要だ。インタビューなど行動して、何がボトルネック（解決を妨げる原因）になっているのか調べてみよう。仲間がいると一緒に考えたりできることが増えたりして、より行動しやすくなる。

②解決方法を考える

課題設定ができれば、解決方法を考えてみよう。自治体や企業が取り組むべきこと、自分が取り組めること、一人一人が取り組むことなど、誰が何をやるのかを分けてみよう。他者が取り組むには、彼らを動かすことが必要だ。君はそのために何ができるだろうか。スモールスタートで、まずはできることから始めよう。

③実行！

解決方法を考えられたら、あとはもう実行するだけ。君が考えた方法を試してみよう。うまくいかないことも多くあるだろうし、思ったよりも簡単に社会は変わらないかもしれない。でも君の行動は、必ず君が発見した困っている人の助けになっている。



0次情報から課題を設定する

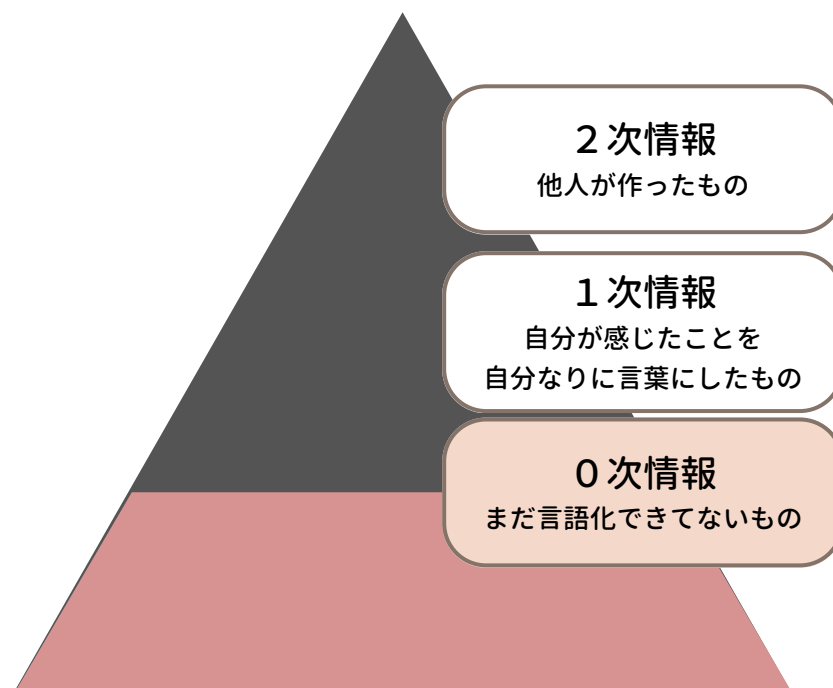
課題を設定するためには、君自身の心のモヤモヤが大切だ。

インターネットで社会背景や状況などを調べる場合、その公開情報は君ではない誰かが作っている。これは2次情報と呼ばれる。詳しい数字や離れた情報も出てくることが多いかもしれないが、せっかく自分が感じた解決したい、助けたいという気持ちからは少し離れてしまうかもしれない。

君が困った人や困りごとに出会ったとき、心の中にモヤモヤした気持ちがあったはずだ。助けたい、解決したい、けどできない、もどかしい感じ。その気持ちを0次情報、それを言語化できたものを1次情報と呼ぶ。社会課題を自分ごととして取り組むためには、この0次情報が大切だ。

多くの0次情報を得るためには、行動して困りごとに実際に触れることが大切だ。そして、そのモヤモヤした気持ちは何に対して感じているのか、どうすればなくなるのかを考える。そしてそれを言葉にすることで、0次情報を1次情報にする。

1次情報ができたら、ようやく2次情報を集める。本やインターネット、データベースなどで調べ、解決方法を考えてみよう。そして、実際に行動することが大事だ。



中高生に向けた大学生によるワークブック SDGs編

11 SUSTAINABLE CITIES
AND COMMUNITIES



P 5 愛媛県伊予市 地域おこし協力隊 上田 沙耶さん
#地域創生 #関係人口増加 #ゲストハウス経営



P 7 KAPOK KNOT 創業者 深井 喜翔さん
#サステナブルファッション #エシカル素材 #環境課題 #労働課題

5 GENDER
EQUALITY



P 9 慶應義塾大学 中島 幸乃さん
#LGBTQ+ #ダイバーシティ ##10代LGBTQ+の居場所づくり

3 GOOD HEALTH
AND WELL-BEING



P11 株式会社 musbun代表、
椋山女学園大学生生活科学部4年 鈴木 萌芽さん
#学生起業 #福祉 #福祉体験マッチングアプリ

4 QUALITY
EDUCATION



P13 NPO法人 Your School 代表理事 吉田 輝々さん
#病院 #学習支援 #場づくり #ホスピタルクラウン

11 SUSTAINABLE CITIES
AND COMMUNITIES



P15 山形市副市長 井上 貴至さん
#地方創生 #行政 #総務省官僚

12 RESPONSIBLE
CONSUMPTION
AND PRODUCTION



P17 NPO法人MOTTAI代表理事 菅田 悠介さん
#食料問題 #食育 #古民家シェアハウス #環境教育

4 QUALITY
EDUCATION



P19 何にもしない合宿 実行委員長 小田 圭介さん
#地域教育 #日常 #暮らしやすさ #お泊り会

3 GOOD HEALTH
AND WELL-BEING



P21 One Young World Japan アドバイザー
高堰 うららさん
#国際的リーダーの育成 #世界会議 #グローバルな社会課題の解決

11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES



愛媛県伊予市地域おこし協力隊

うえだ さや

上田 沙耶さん

#地域創生
#関係人口増加
#ゲストハウス経営

自己紹介をお願いします！

愛媛県の「双海」という町が大好きすぎて、大学4年生の時に横浜から移住しました。双海を盛り上げるべく、地域商社と喫茶&宿ポパイ事業など色々な活動をしています。



課題に取り組み始めたきっかけを教えてください。

父の実家であり祖父母の営んでいた商店と食堂に、自分は住んだことこそ無いものの毎年帰省などでやってきていました。この街の温かさやど田舎さに惚れ込んで、何とかしたいな、もうちょっと活気付けたいなと思って移住し、活動しています。祖父母が営んでいた商店と食堂は、私が移住後に喫茶&宿ポパイとしてリニューアルし、私が運営しています。

上田 沙耶さんの課題解決図

背景

海沿いに美しい景色が広がり、昔ながらの温かいお店やつながりが残る双海。駅の利用者減少、人口減少により寂しい雰囲気が広がるようになりました。

課題①

まちの過疎化

「この町は過疎過疎で、もう終わっとる」との、祖母の嘆きの言葉。

課題②

祖父母経営店の復活

祖父母の経営する喫茶ポパイは40年程前の改装後、訪問者や人口の減少により休業状態に。

解決方法

活動の一つは地域商社を目指した事業です。地域の一次産品がメインの街なので、そういったものの販売オンラインショップを立ち上げて販売したり、商品、加工品を開発して販路開拓したりしています。

もう一つは祖父母のお店の2階以上がほぼ使っていない状況だったので、2階のレストランを復活させて喫茶店をやっています。また喫茶店の奥に空いてる部屋があったので、そこも改装してゲストハウスとして経営しています。



海に恋する 泊まれる喫茶店

ポパイ

ほんとに
綺麗な海！
行ってみたい！



今後

自分の原点である双海で解決したい課題はまだまだ沢山あります。そのため会社を作って人を呼び込んでしっかりとした組織として双海を良くする事業を次々作っていきけるような形を作っていけるのが理想だなと思っています。

VISION

「愛するこのまちを盛り上げたい！」

大好きな場所を
盛り上げようと
関わってるって
素敵だなあ





12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION



KAPOK KNOT 創業者

ふかい きしょう

深井 喜翔 さん

#サステイナブルファッション
#エシカル素材 #環境課題
#労働課題

自己紹介をお願いします！

家業である1947年創業のアパレルメーカー双葉商事の4代目であり、木ノ実由来のファッションブランドKAPOK KNOTの代表をしています。

1日に10回以上「カポック」と発する自称カポック伝道師です！

課題に取り組み始めたきっかけを教えてください。

大学卒業後、大手繊維会社でファッションメーカーへ就職し営業を担当していました。当時から海外向けではリサイクル素材などエコフレンドリーな商品が売れ始めていたのですが、日本のメーカーは興味を示していませんでした。クライアントの決まり文句は「安い生地はないの？」。価値の基準がお金しかない、ファッション業界の構造に驚いたのがきっかけです。

深井 喜翔さんの課題解決図

背景

2000年以降、いち早く流行を取り入れた安くて手軽なファストファッションが台頭。低価格化のために、人件費の安いアジアにおいて安価な石油系の合成素材を使った服が大量に生産されており、結果的に労働問題や環境問題を引き起こしています。

課題①

業界問題

現状各国で人件費が高騰し、原価が上がっています。工場が無理をするか、会社が無理をして利益を削るのか...
いずれにしてもサステイナブルな構造ではないです。

課題②

環境問題

企業は利益をあげるため、安い生地であることが優先しがちです。服の素材で安いものはほとんどが石油由来の化学繊維であり、環境負荷が大きいです。

解決方法

カポックの利用

カポックとは

インドネシアなど熱帯地域に自生する植物です。実から繊維を取ることができます。

- ①農薬や化学肥料を使わなくても育つ
- ②採取するために樹木を切り倒す必要がない

このような利点があるにもかかわらず、カポックは繊維が短すぎて糸にすることは難しいという理由で、多くの企業は手を出していませんでした。ちょうど母方の親戚が群馬で布団工場を営んでいたこともあり、教わりながらカポック繊維をシート状に加工した「エシカルダウンカポック™」の製品化に成功！。生産しているインドネシア・ジャワ島にも足を運び、現地の農場と2020年に契約し、同時に企業にも売り込みました。しかし、担当者の反応は冷たく、「どのブランドが採用しているの」と実績を問われてしまいました。

そこで、自分で「KAPOK KNOT」（カポックノット）というブランドを立ち上げ、「消費者」「生産者」「環境」の3つの視点に立ち、製品ができてから届くまでに関わる全ての人たちに寄り添ったものづくりをしていきます。

綿とかポリエステルはわかるけど、カポックはどんな感触なんだろう！



環境を守りながらファッションを楽しみたいな！



VISION

「世界中にサステイナブルで機能的な素材を届ける」



5 GENDER EQUALITY



慶應義塾大学

なかしま ゆきの

中島 幸乃さん

#LGBTQ +
#ダイバーシティ
#10代LGBTQ+の居場所づくり

自己紹介をお願いします！

中島幸乃(なか「し」まゆきの)です。
LGBTQ+当事者として、各地の中学校や高校に
ダイバーシティの授業を行っています。また、実体験を
もとに10代のLGBTQ+の居場所「cafe Moonlight」を
立ち上げ、小学館のウェブメディア「steenz」や、BS
テレビ東京の特番に出演しました。

課題に取り組み始めたきっかけを教えてください。

私は18歳の時に初めて彼女ができ、自分がLGBTQ+当事者だと自認しました。周りの友達、親にはカミングアウトができず、「彼女」を彼氏と言い続ける日々は、辛かったです。また、その彼女と別れたとき、自分のセクシャリティがわからなくなりました。自分は、彼女がいたからレズビアン？かもしれないけど男性と付き合ったこともある、でも「バイセクシャル」ではない気がする。当事者間でしか共有できない悩みを共有する相手がおらず、「孤独」でした。



私のセクシャリティは、
セクシャル・フルィディティ
(性的流動性)です！



中島 幸乃さんの課題解決図

背景

10代の当事者が当事者間でしか共有できない悩みを共有したくても、新宿二丁目を代表とするゲイタウンは、ほぼ全てが「酒場」なのです。
NPO法人などが「10代向け LGBTQ+イベント」を開催してくれていても、それは月一の開催であるため、コミュニティが形成されなかったり、本来話したい内容を話せなかったり、本当の10代のニーズにあったものではありませんでした。

課題

10代LGBTQ+コミュニティができづらい

LGBTQ+当事者は可視化が難しく、カミングアウトすることが難しいケースも多いです。そのため、非当事者が存在を認識することはもちろん、当事者同士が繋がることも困難です。最近では、SNSで繋がることもありますが、匿名性により危険を伴う場合もあります。そのため、相談し合えるような、当事者が安心できるコミュニティができにくいという現状があります。

解決方法

「年齢・セクシャリティにとらわれず、自分らしくいられる場所」として、完全ノンアルコールの Cafe Moonlight を10代の私が創りました！



実行

来場者の皆様にポジティブな気持ちで帰っていただくのが目標だったので、「HELP カード」や「公式 LINE」で嫌なことがあれば店員に言いやすいようにしたり、「Moonlight Credo」を作成し掲示していました。さらに、フランス人ソムリエ監修ノンアルコールカクテルやココアシガレットを提供したり、フォトスポットを作ることで、コアターゲットの10代に楽しんでいただけるようにしました。

非当事者の来場者の方にも LGBTQ+を知っていただくため、LGBTQ+関連の本や資料を各所から集め「性の多様性」について知ることができる環境にしました。集客は、LGBTQ+の方の目に触れやすい場所にフライヤーを貼っていただいたり、多くの場所に走り回って配りました。

Cafe Moonlight Credo ~私たちの約束~

1. LGBTQ+当事者、アライの方のみが、お入りいただけます。
※アライ(Aly) = LGBTQ+当事者たちに寄り添い、寄り添いたいと思う人
2. Cafe Moonlight 内の人を傷つける発言・行動をする人には退店いただきます。
3. 酔っ払ったまま、騒ぐことはご遠慮ください。
4. もしも嫌なことが、困ったことがあれば、相談員にいつでも声をかけてください。
「HELP カード」を渡すか、「公式 LINE」にすぐ連絡して知らせてください。
5. 相手の許可なしに相手の個人情報、画像、動画を SNS 上に投稿しないでください。



安心して
本当の自分で
いられる場所だね！



VISION

「セクシャリティ・性別が「男・女」だけではない、
一人ひとり違うもので良いという価値観を広げたい!」



3 GOOD HEALTH AND WELL-BEING



株式会社musun代表、梶山女学園大学 生活科学部4年

すずむら もえみ

鈴村 萌芽さん

#学生起業家 #福祉
#福祉体験マッチングアプリ

自己紹介をお願いします！

株式会社musun代表の鈴村 萌芽です。
学生向けの福祉体験マッチングサービスの運営、地域交流イベント企画、採用支援などに取り組んでいます。「誰もが輝く、活力あふれる地域づくり」を目指して、きっかけ・仕組み・地域づくりのためのサービスを提供しています。

課題に取り組み始めたきっかけを教えてください。

おじいちゃんおばあちゃんたちに恩返しがしたいと思ったからです。小さい頃から沢山のお年寄りにとても可愛がってもらって育ちました。大学1年生の時に老人ホームでのボランティアに参加し、福祉業界の人手不足問題を知り、この問題を解決して恩返ししたいと思ったことがきっかけです。

最近はmusunに高校生メンバーも入ってきたんだって。大学生からしかできないのかと思ってたけど、高校生でも挑戦できるんだね！起業は若いうちにした方が大人が応援してくれて想いを形にしやすいみたい。私も挑戦してみようかな！



鈴村 萌芽さんの課題解決図

背景

ボランティアの際に、福祉施設では学生と接点が少なく採用に困っていることを知りました。福祉業界はネガティブなイメージを持たれることもあり、人手が不足しています。しかし体験してみると楽しくて面白い、少し手伝うだけで物凄く感謝され、やりがいもあります。一方、学生の中には誰かの役に立ちたいと思う人が増えていますが、活動場所を見つけられていない現状があります。福祉の魅力を若い世代に伝えるため、活動を開始しました。

課題①

福祉業界の人手不足

福祉業界は「給料が低い、忙しい、大変」というイメージが強い。そのため福祉業界の志望者は少なく人手が不足し、各施設が困っている。

課題②

活動方法がわからない学生

多くの学生が誰かの役に立ちたいとボランティアに興味を持つ。しかし、福祉施設はハードルが高く、活動場所を見つけられず困っている。

解決方法

若い人の福祉に対するイメージを変えるため、多くの学生に福祉を体験してもらう！

- 福祉施設と学生のマッチングアプリ「musbun」を開発・提供。福祉施設と学生が登録することでボランティアやインターンを簡単に探せるようにした。
- 福祉のメディア「musbun links」の運営。福祉の魅力をより多くの人に知ってもらう。
- 新規採用支援サービス。学生を対象にSDGsや福祉をテーマに採用イベントを開催。
- その他、交流イベントや福祉施設でのインターンの企画運営、講演活動など幅広く実施。



今は主に鈴村さんの出身地である愛知県の福祉施設が載っているんだって！



学生起業へのアドバイス

最初は人脈0、お金0、知識0で何もわからず大変だったが、以下の行動を実践しました！

- ビジネスコンテストやアイデアコンテストに参加する、Twitterで呟く
→自分のやりたいことを言いまくっていたところ、応援してくれる人や仲間が集まる
- 商工会議所や大学が開催する無料の勉強会に参加する→お金がなくてもビジネスが学べる
- とにかくやってみる、動いてみる→動いてみることで道が拓けます

VISION

「福祉」という言葉がなくなり、
隣の人に当たり前に手を差し伸べる社会にしたい

まずはビジネスコンテストから初めてみよう！





4 QUALITY EDUCATION



NPO法人 Your School 代表理事

よしだ きき

吉田 輝々さん

#病院

#学習支援

#場づくり

#ホスピタルクラウン

自己紹介をお願いします！

NPO法人 Your School 代表理事。2017年より活動を始め、2019年に法人設立。入院中に誰でも集うことができる”学びの場”を子どもたちと一緒に作りたいという想いから、小児病棟における学習支援プロジェクトを始動しました。

課題に取り組み始めたきっかけを教えてください。

幼少期より命を救える現場で働くことに対して憧れを持っていました。私の原点とも言えるのは、入院中の子どもたちに笑顔を届ける「ホスピタル・クラウン」というボランティア活動との出会いです。治療が第一義とされる病院という場所で子どもたちと遊び、医療者が中心の職場に”部外者”がいるというのは、当時小学生だった私にとって新鮮でした。そして何より、それを求めている人がいるという事実を知った時のはっとさせられた感覚は今でも覚えています。

「クラウン」は道化師、日本でいうピエロにあたって、ショーや遊びを通して入院中の子供たちに笑顔を届けているみたい！



吉田 輝々さんの課題解決図

背景

ホスピタル・クラウンの活動に関わる中で、入院中の子どもたちの学びが十分に保障されていないということを知り、現在の活動へとつながりました。

課題

国の制度や自治体の取り決めに基づき、在籍校や学年、病状によっては入院期間中の学びを十分に保障されない場合がある

僕も昔入院してたけど、学校の勉強に追いつけなくて大変だったな。



解決方法

Your Schoolでは、医療系学部の学生メンバーが中心となり入院中の子どもたちの学習支援を行っています。子どもたちは所属・学年に関係なく、主治医の許可・保護者の同意があれば、どなたでもYour Schoolに参加することができます。

学生メンバーは活動に参加する前に、事前研修として感染症対策や院内規則、病児とのかかわりについて学びます。また定期的に勉強会も開催しています。

1回あたりの活動時間は2時間程度で、学生メンバー複数人で子どもと関わり学習サポートをしています。在籍校の宿題に取り組むこともあります。一緒に本を読んだりお話をしたり、家庭科の授業でクラスの人々と一緒にできなかったエプロン裁縫をしたこともありました。テストで満点をとるためのいわゆる勉強に限定せず、広義での”学び”をYour Schoolでは大切にしています。



今後

全国にはNPO法人Your School以外にも、学生が中心となり入院中の子どもたちの学習支援を行なっている団体があります。

今後はそれらの団体とのネットワークを形成することで、それぞれの課題をお互いにサポートできるような体制を構築していきたいと考えています。厚生労働省管轄の病院という場所で、文部科学省管轄の学校教育を保障するのは一筋縄ではいかない部分も多々あるかと思いますが、より良い”学びの場”づくりに向け、できることから着実に積み重ねていきます。

VISION

「病気による困難を抱える子どもたちの学び保障」



11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES



山形市副市長

いのうえ たかし

井上 貴至さん

#地方創生
#行政
#総務省官僚

自己紹介をお願いします！

総務省に入省し、現在は山形市の副市長をしています。その他にも地域・自治体の仕組みについて詳しいという専門性を活かし、大学の研究員や様々な団体の理事、ビジネスコンテスタのアドバイザーなども務めています。

課題に取り組み始めたきっかけを教えてください。

大学生の頃に、所属していたゼミの先生に「君らは現場を知らない」と言われて地域に連れて行ってもらった時に、現場にこそ本質的な課題があると感じたことがきっかけです。国と自治体を行き来することで現場のリアルを国の制度に落とし込んでいくことのできる総務省に入省しました。



井上 貴至さんの課題解決図

背景

地域において様々な人の話を聞いたり、まち歩きをしたり、まちのデータを見たりすることで当該地域（現在は山形市が中心）の見識を深め、他の自治体の先進事例をどのように山形に落とし込めば社会がよりよくなるかを考えています。日本は多様な地域が存在しており、各地域でできることもバラバラである点が面白いと思っています。

課題①

女性の管理職が少ない

諸外国と比べて、管理職における女性の割合が低い。出産や育児で仕事を辞めてしまうケースが多くみられる。

課題②

高校生や大学生が街中で滞在しない

まちに住んでいると、その町の課題や「こうすればもっと良くなるのに」と感じる点が見つかる。そのような気づきをいかに政策に反映させるか。

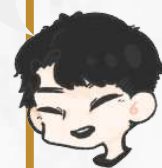
解決方法

山形市では、子どもが生まれた男性職員に対して市長が当該職員とその上司を呼んで育休の重要性を話すことで、全国でも高水準の育休取得率を実現しました。

また、駅で高校生が電車を待っている間にスマホを見ている光景を目にし、他にも時間の使い方を選択できるよう駅の自由通路に本の広場を設置したり、街中の市の図書館分館をきれいな山を見ながら高校生・大学生が滞在しやすい空間にリノベーションしたり、気づきから変化を生みました。



日常の1コマが、まちを元気にする原点なんだね！



大切なこと

自分だけでできることは限られているので、いかに仲間をつくっていくか、そのために現場で直接お話を伺い、相手をリスペクトするようにしています。

VISION

自分たちが社会の一員としてどのように社会を良くしていくのか、チャレンジできる日本に！

日本全国どこでも効果のある「万能薬」はないってことだ！





12 RESPONSIBLE CONSUMPTION AND PRODUCTION



NPO法人MOTTAI代表理事

すがた ゆうすけ

菅田 悠介さん

#食料問題 #食育
#古民家シェアハウス
#環境教育

自己紹介をお願いします！

NPO法人MOTTAI代表理事/東京の会社員/罾猟師。畑と海と山にかこまれた古民家シェアハウスを小田原にて運営しています。福岡出身で慶応大卒業後、MOTTAIを立ち上げ、環境教育・食育をおこなっています。

課題に取り組み始めたきっかけを教えてください。

受験生の時に見た、ある狩猟に関するブログがきっかけです。実際に自分が鴨の解体を体験したことで「こうやって動物が殺され、自分の命となっているのか」と衝撃を受けました。その結果、食べ残しを一切しないようになり、社会においても食べ残しが多く行われている現状を解決したいと思い活動を開始しました。



菅田 悠介さんの課題解決図

背景

受験生の時に見たブログの中では狩猟に対する考え方の違いを強い口調で言い争っているコメントが散見され、強い違和感を覚えました。
また、現代社会においては家庭においても外食産業においても食べ残しが多く行われている現状に怒りや疑問を覚え、食べ残し問題の解決に動き出しました。

課題①

食料問題

食べ残しが多く行なわれている社会が日常化。動物などの命を頂いているという感覚が薄い。

課題②

農家・猟師の減少

農家などが減ってしまうことで食べることにについて考えるきっかけを得られていないのではないか。

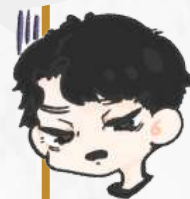
解決方法

食べ物が作られる過程や生産者の想いを知る機会が増えれば大事に食べる人が増え、食べ残しが減るのではないかという考えのもと、農業体験や狩猟体験、農家や猟師・漁師らとつながる機会を提供しています。

具体的には、養鶏農家と一緒に鶏解体ワークショップや、狩猟のハードルを下げるためのシェアリングサービス、農家さんのファンクラブ支援サービスや、農家さんらのお手伝いマッチングサービス、食べ残しになりそうなものを持ち寄った料理会の運営などを行なっています。



形が整っていないという理由だけで、廃棄される食品もあるよね。



今後

食べることにについて考えるきっかけをさらに増やしていきたいと考えています。そのために、生産者の仕事体験ができる場所を探すアプリの開発や、学校や企業などを相手とした鶏解体ワークショップの提供、オンラインイベントの実施、生産者らとつながる新たな拠点の立ち上げなどを行います。

課題としては持続可能的に事業を続けていくことで、本当にやりたいこととある程度やらねばならない仕事のバランスを取ることを頑張っていきたいです。

体験することで自分事として捉えられるようになるのね！

VISION

頂く命に感謝して、食べ残しのない世の中に！





4 QUALITY EDUCATION



何にもしない合宿 実行委員長

おだ けいすけ

小田 圭介さん

#地域教育

#日常 #暮らしやすさ

#お泊り会

自己紹介をお願いします！

社会教育に不足する「日常の関係」に着目し、子供たちと地域との接点、世代や学校を超えたつながりを作るべく、裾野市東地区において月1回のお泊り会「何にもしない合宿」を考案、実施しています。

課題に取り組み始めたきっかけを教えてください。

「暮らしやすさ」を求めて地域の交流の場を開いていましたが、自分の周りだけでなく他の子にとってもそのような場が必要とされていることに気が付きました。



小田 圭介さんの課題解決図

背景

自分や妻、我が子にとっての「暮らしやすい」を求めて、地域の中で遊びを通じた交流の場を開いていました。これは課題解決のための手段ではなく、もっとベタベタした人間関係の中で暮らしたいという「ありたい未来」から考えたものでしたが、私たちや我が子にとって必要だと考えていた居住地域での多様な関わりが、他の子にとっても必要とされているということに気がつきました。しかし、このつながりの持つ力というものは経験してみないと必要性を感じることはなく、第三者から見て必要があるのではないかと感じる子ほど積極的には関わっていない現実があることにも気がつきました。

課題①

つながりが少ない子どもたち

学校と家庭以外とのつながりが存在しない子供たちにとって、居住地域における多様な関わりは必要とされている。

課題②

コロナ禍で休止

コロナ禍では「遊び」が不要不急扱いとされ、活動がストップしてしまっている。

解決方法

2012年9月、小学校の体育館を使った月一のお泊り会「何にもしない合宿」をスタートさせました。夕食、入浴は各家庭で済ませ、寝袋だけ持って集まり、消灯の時刻まで遊びたいように遊び、寝て、朝はまた少し遊んでから帰宅するという、特別なことをしないお泊り会のため、企画もなく、準備も不要で、負担なく毎月開催できるというものです。

「何にもしない合宿」がコロナ禍で休止してしまった際にも、子どもたちの地域とのつながりを維持、回復すべく地元消防団員で多種目スポーツ教室を開催し始めました。



友達とお泊りするだけでワクワクするよね！



こだわり

今までにも社会的に意義のありそうな「体験の場」は多く開いてきました。しかし、参加するには子どもの「参加したい」と保護者の「参加させたい（参加させてもいい）」が重なる必要があります。保護者が地域社会や体験活動に対して消極的だとそもそもつながることができません。そこで、「何にもしない合宿」は関わりのハードルを極端に下げたものになるよう工夫しました。

まずは参加してもらうことから始めるのが大切かも！

VISION

コロナ禍で失われてしまった「遊び」の空間を復活させていきたい！





11 SUSTAINABLE CITIES AND COMMUNITIES



One Young World Japan アドバイザー

たかせき うらら

高堰 うららさん

#国際的リーダーの育成

#世界会議

#グローバルな社会課題の解決

自己紹介をお願いします！

「社会として個人を支える環境づくり」に取り組んでいます。個人自らが自分の環境を選んだり変えられる社会を設計し、動かしたいです。

高校時代からOne Young World (OYW) 世界大会へ日本代表として3回派遣され、2022年よりOYW Japanのアドバイザーに就任して活動しています。その他、オモテテ株式会社の代表として生理用品をあらゆるトイレで配布するサービス、一般社団法人アンカーではキャリアやSDGsの教育、NPO法人Your Schoolでは院内学級に取り組んでいます。

大学は慶應義塾大学法学部政治学科、東京大学大学院工学系研究科修士課程を卒業し、現在は同学科の博士課程を休学中です。

今回は、OYWについて詳しく話します。

課題に取り組み始めたきっかけを教えてください。

私は幼少期から、「誰かのためになる仕事」に憧れていました。個人の悩みは社会課題に繋がっています。そのことを知り、「社会課題の解決」、そして国連や政府の仕事に興味を持つようになりました。高校生からでもできるを探し、OYWを見つけました。年齢制限で本来参加できないはずだったのですが、私の熱い想いや考えに事務局が共感し、OYWに派遣してくれました。



高堰うららさんの課題解決図

背景

私自身がOYWに参加した後、見える世界や選択肢が増えました。個人1人で達成できることは限られています。そのため、一緒に取り組む仲間や同じ目標を志す人が課題の解決にはとても重要です。そのために、リーダーの育成や後押しをする存在を増やしていく必要があります。

課題①

リーダーが抱える問題

同世代で活躍する人とあまり出会えない。もっと学び合えるコミュニティが欲しい。

課題②

アクションを起こすために

社会課題のためにこれから活動を始めていきたいけど、どうすればいいのかわからない。

解決方法

OYWは日本で活躍する人を世界会議に派遣し、世界中のリーダーとの出会いを作ります。お互いを刺激し学び合えるコミュニティを提供しています。

日本ではこれから活動を始めている人を対象としたコンテスト、学生や女性向けに特化したプログラム、交流イベントも開催しています。活動的かつ英語ができる人は限られているので、英語でのピッチ練習などのサポートをするプログラムも立ち上がりました。

私個人としては交流イベントへの登壇や世界会議でのワークショップの開催などを実施してきました。



世界で活躍する多様な人に出会えて良いな！



実行

国際会議への参加など国際的な活動ができる人が日本では現時点でかなり限られています。そのため、各地域でインパクトのある活動をしていても、グローバルへの発信や展開ができない、国際的な場に呼ばれないという状況です。「英語ができる」とことと「国際的な場にいる」ことは必ずしもイコールではありません。これからはローカルな活動の重要性を主張しつつ、様々な活動をする方にあらゆる機会を増やしていきたいです。

VISION

「グローバルな社会課題の解決のために、
地域で活動を先導するリーダーを育てたい」

①課題の設定

年 組 番 名前

0次情報 日常生活や身の回りの困りごと、モヤモヤすることを考えてみよう

1次情報 自分は何に対してモヤモヤしているのか、言語化してみよう
Why, Where, Who, Whatを明らかにしよう

2次情報 インターネットや本を使って、社会の現状を調べてみよう

向き合いたい課題 君が取り組みたい困りごとは何だろう

ボトルネック その課題の最も重要な、根本的な原因は何か

②解決方法を考える

年 組 番 名前

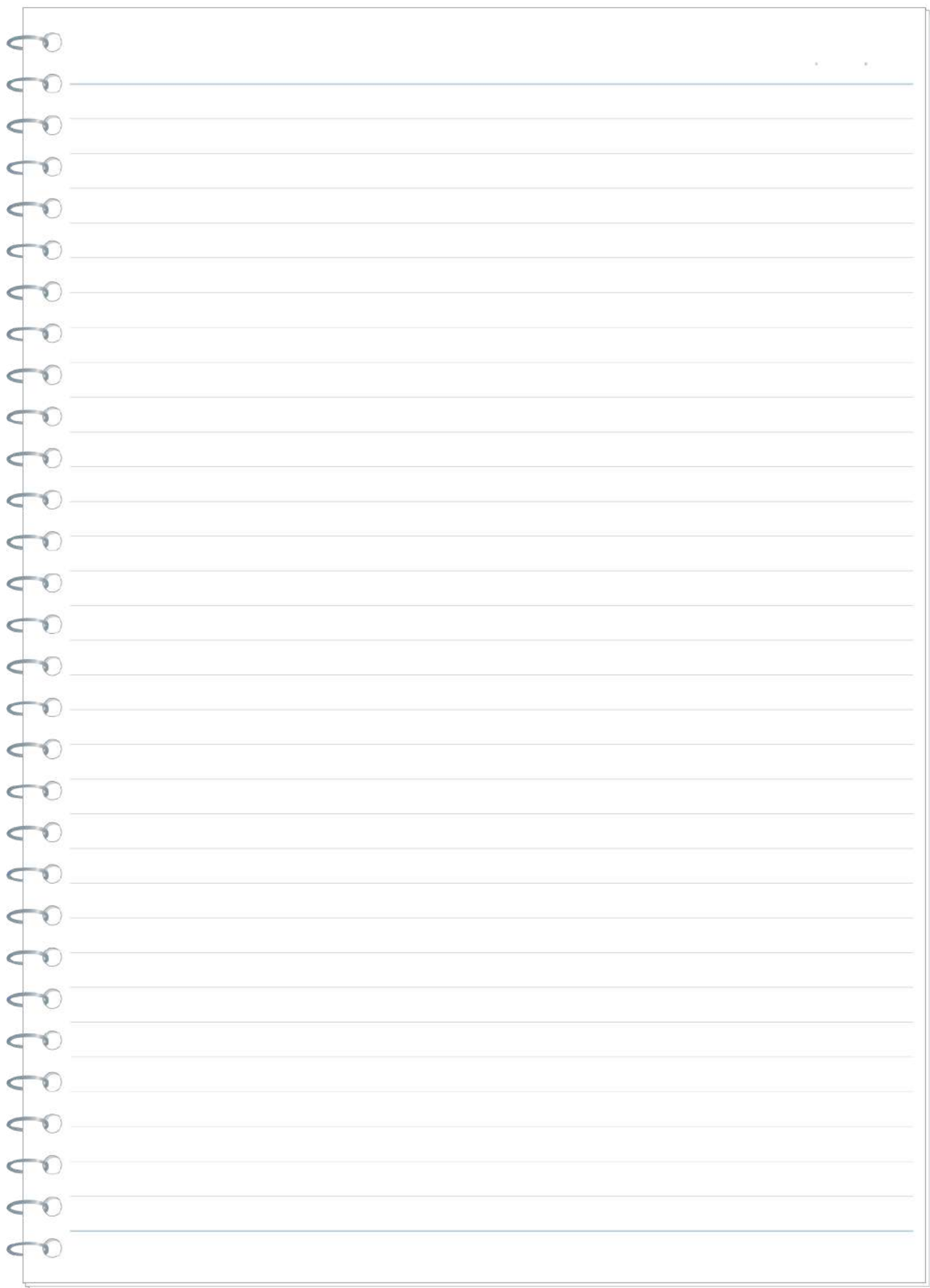
君の解決策

自分ができる解決策からスモールスタート！
Why, Where, Who, Whatを明らかにしよう

先行事例

社会の中ですでに実行されているは解決策を調べてみよう

実行！ 君が考えた解決策を試してみよう！



中高生に向けた大学生によるワークブック
SDGs編

発行・制作	一般社団法人アンカー 〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1丁目12-3 Kanal Platz 3 階 mail : info@anchor-project.org
監修	横田 浩一 一般社団法人アンカー共同代表理事 株式会社横田アソシエイツ代表取締役 慶応義塾大学大学院政策・メディア研究科特任教授



Sustainability Awards
for Students by Students

#SASS

大学生による中高生のための SDGs / サステナビリティアワード

